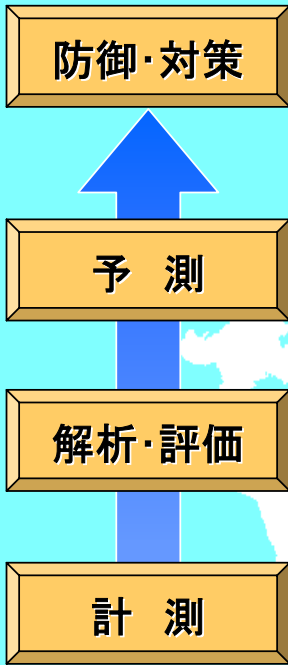


(様式1)

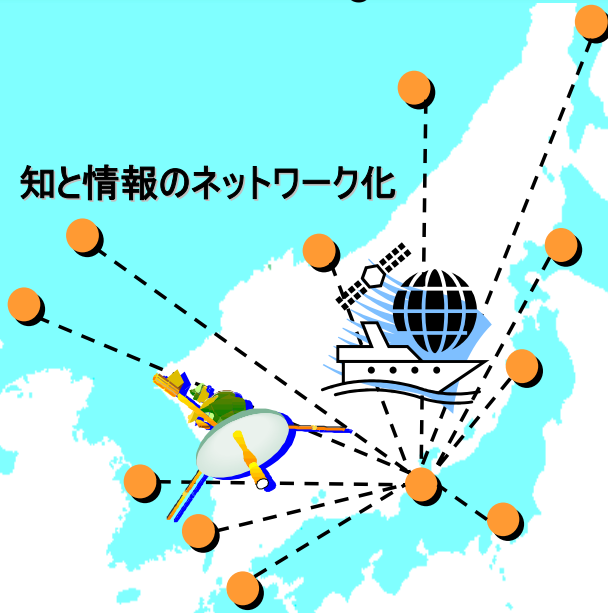
大 学 名	金沢大学	学 問 分 野	学際、複合、新領域
専 攻 等 名	自然科学研究科 地球環境科学専攻、生命科学専攻、システム創成科学専攻、物質構造科学専攻；自然計測応用研究センター		
拠点のプログラム名称	環日本海域の環境計測と長期 短期変動予測・モニタリングネットワークの構築と人為的影響の評価・		
拠点リーダー氏名	早川 和一	所属部局・職	自然科学研究科・教授
プログラムの概要	本事業は、日本海域を対象とする高感度環境計測法の開発とそのデータネットワークの構築、それに基づく環境変動の予測、有用資源の保全と有効活用、災害防止に関する研究教育を行う。		
拠点形成の目的・必要性	日本海は、地震や火山活動の盛んな地帯であるとともに、その両端は狭い海峡で、人為的汚染にはきわめて弱い。一方、中国、北朝鮮、韓国、ロシア諸国は、産業や経済が急速に発展しつつあり、化石燃料の消費に伴って大量の有害物質を排出している。これらは、近年の国境なき環境問題を引き起こす大きな要因となっている。従って、環日本海域環境の長期的、短期的変動の予測とそれに基づく保全・災害防止対策の構築は極めて重要である。		
研究拠点形成実施計画	<p>(1) 次の4つを柱に研究を進める。 世界最高レベルの計測技術開発(極低レベル放射線測定, 多環芳香族炭化水素類, 等) 環日本海域をカバーする環境モニタリングネットワークの構築 短期(～10²年, 人為的要因含む), 長期(～10⁶年)の環境変動解析 集塵, ナラ枯防止技術, 地盤・岩盤破壊予測システム等の環境保全・防災技術の開発</p> <p>(2) 世界トップレベルの研究拠点形成のため, 次のプランを実行する。 海外の共同研究実施機関, 協定校との協力体制の強化 収集データのインターネット上での公開 国際シンポジウム, セミナーの開催(毎年開催し, トップレベル研究者を招聘) 国際英文Journal, Newsletter等英文刊行物を発行 環日本海環境に関するテキストブックの刊行 世界トップレベルの研究者による外部評価の実施 産官学連携の促進による知の供与, ベンチャー育成</p>		
教育実施計画	<p>(1) 理念・目標 世界的な英知・技術の集積による世界トップレベルの環境科学者, 技術者の育成を目指す。学生が, 環境分野の深い専門知識のほか, 課題発見・研究立案・研究遂行能力, 国際コミュニケーション能力, 学際分野で仕事ができる能力を身に付けることを達成目標とする。</p> <p>(2) 教育目標を実現するための教育プログラム 環日本海環境域で特に問題となっている環境科学分野に特化したカリキュラム編成 学生・若手研究者相互交流プログラムの立ち上げ 地球環境科学スクールの開催とテキストの出版 英語トレーニングコースの立ち上げ 研究プロポーザルのコンペと研究費の補助 TA, RA, ポスドク制度の充実 教育プログラム検討委員会と, 外部評価委員会の創設と plan-do-see システムの確立</p>		

環日本海域の環境計測と長期・短期変動予測

Long- and Short-Term Dynamics of Pan-Japan Sea Area :
Environmental Monitoring and Prediction



知と情報のネットワーク化



世界最高の計測技術の確立

